

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1174500577		
法人名	社会福祉法人花園公益会		
事業所名	フラワーヴィラグループホーム		
所在地	埼玉県深谷市小前田2677		
自己評価作成日	平成22年4月22日	評価結果市町村受理日	平成22年6月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=1174500577&SCD=320
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユーズキャリア		
所在地	埼玉県熊谷市宮前町2-241		
訪問調査日	平成22年5月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同法人の特別養護老人ホームと併設していることから看護体制の協力や、夜勤時の応援など人的環境では充実しており、利用者の健康、安全面は確保できている。また、法人設立当初からの経緯もあり、地域の理解や協力は絶対的なもので特に、防災訓練は自治会を中心に近隣障害施設なども一緒にと、参加を呼びかけてくれるといった関わりを常に持っている。これは、とても強力な財産で有り施設側からも積極的に地域行事に参加し、良い関係を保っている。建物の環境面では、採光を重視し、表庭、中庭、裏庭と、豊かな環境を利用して、認知症の症状があっても、その人が望む環境で、安心して暮らせる空間作りを目指している。開設当初からの理念である、「利用者中心のケア」ゆっくり、ゆったり、のんびりとを常に心がけ、決して焦らず利用者が安心して暮らせるお手伝いをしており、併設施設、近隣施設を利用し、地域の中の一員として協働の取り組みにも力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、自然豊かな山々に囲まれた社会福祉法人が開設する1ユニットのグループホームである。同法人には特別養護老人ホーム、デイサービス、ホームヘルプサービス、小規模多機能施設等があり、併設の特養の医療や看護体制、防災訓練等連携が図れている。地域の理解や協力は法人設立時より築かれ、地域住民に認知症の理解を促し、地域の一員として受け入れられている。ホーム敷地内の表庭、中庭、裏庭には四季折々の草木や花が植えられ、各居室や共有スペースから自由に出入りが出来、飼われているチャボやカエルガモの世話も入居者が行っている。建物は円形になっており、天井も高く高窓からの採光も良く、明るく開放感あふれている。職員の定着率も良く、入居者や家族と信頼関係が築かれ、入居者中心のゆっくり、ゆったり、のんびりとした心穏やかな生活支援を実践している。又、地域の一員として協働の取組みも行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいたケアの実践に心がけ、「いつまでもともに地域の中で・・・ゆっくり、ゆったり、のんびりと・・・」日々のケアの中で取り組んでいる。	管理者は定例会議において個人の尊厳や地域の方との関わりについて触れ、話合っている。理念と共に運営方針も玄関に掲げ、職員間で十分に理解共有し、日々のケアで実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会行事参加や(除草作業・地域祭り・ふれあいサロン)施設の合同防災訓練、納涼祭など、地域とともに、施設があるといっても過言ではないほど、自治会も協力的である。	地域との関わりが深く、地域住民のボランティアにより畑が作られ、収穫した野菜等はホームで食している。又、施設の合同防災訓練では近隣施設との連携も図られ、交流は日常的に盛んに行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域高齢者の会、ふれあいサロンに参加し、認知症の理解のお話しや、体操教室のレクに参加したりと、地域の中で施設の役割など話す機会を設けていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回開催している。会議では、利用者の現状報告や、外部報告の結果、行事、地域の悩みなど、話し合うことから、施設、地域や家族とのコミュニケーションを図っている。	2ヶ月に一回開催し、自治会長、近隣障害者施設の管理者や社協、包括支援センターの担当職員、家族等が参加している。ホームの運営報告等の場であると共に、地域会議としての役割も期待されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当地域の包括支援センターの職員と運営推進会議をとおして話し合ったり、市のケアマネジャー連絡協議会に参加している。また、困難事例などの取り組み状況を通じて、各関係機関に協力関係を築ききっかけ作りをしている。	包括支援センターの担当職員が運営推進会議に毎回出席し、日頃から運営に関しての報告や空き情報等の交換を密に行っている。困難事例の相談や受入れ等、協力関係は良好である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「拘束をしないケア、施設」を法人全体で取り組んでおり、定期的な研修会を実施している。	法人全体で「身体拘束をしないケア」の実践をしている。定期的な研修を重ね、職員は正しく理解している。建物は開放的な造りで自由に出入り出来、入居者が外に出た場合、職員が付添い、柔軟な対応をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	関わり方、言葉遣い等について、研修会を通して学ぶ機会を増やし充分気をつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会には積極的に参加し理解に努めており、必要なときには、支援できる体制をとっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約に関しては、ご利用者家族と話し合う時間を充分にとり、不安や心配事が発生しないようまた、納得いただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人全体で家族会があり、年に1回の全体会や、家族会には、法人の第三者委員にも参加していただき、様々な意見や要望に応えられるようまた、その事を運営に反映できるように取り組んでいる。	家族の面会も多く、日頃から管理者や職員との関係も良好で、気軽に話せる雰囲気を作っている。家族会や運営推進会議の出席も良く、意見や要望は会議にて検討し、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフの会議の中で自由に意見が言える雰囲気を作るよう努力をしているが、施設長や管理者のいる場所で、思ったことが言いづらいというときには(あまりないが)そんなことも考え、各部署でのミーティングの機会を多く設けている。	管理者は、スタッフ会議で自由に意見が言える雰囲気を作り、活発な意見交換が行われている。代表者は年数回スタッフと面接を行い、現場での意見や提案を聞く機会を設け、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	園長または、副園長が、年に2回以上の面接を実施し、スタッフ一人ひとりが努力していることや勤務している姿勢の把握に努めている。給与、賃金に関しては、法人全体で人事考課制度に取り組み、公平かつ公正に評価できるように、実践している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修や外部研修などには、積極的に参加できるように勤務上の配慮をしている。また、働きながら取得できる資格については、可能な範囲で支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のケアマネージャーの研修会や、埼玉県認知症グループホーム・小規模多機能協議会の研修会参加や、同協議会の北部部会などの交流研修を積極的に参加している。ときには、主催し地域グループホームとも相互訪問会を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の本人の状況把握はもちろん、入所後本人の不安はないかなど、スタッフは、常に利用者の行動や精神的な把握に努めている。また、一緒に時間を過ごすことで、少しの行動の気づきにも対応できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族情報の中で何が困り事なのかを把握するために家族とコミュニケーションをとる機会を多くし、利用するにあたり、不安や要望に耳を傾ける努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族にとって、「その時」必要なサービスは何かを常に考えながら関わり、サービスが主観的にならないように気をつけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできることは何かを知ることで、共に出来ることを見つけ本人の暮らしの中で生きがいを持つようなサポートが大切と考えている。また、スタッフ自身も利用者から人生の先輩として学べることを身につけたいという気持ちを持つような人間関係が気づけるよう心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所されても地域の中で暮らすことは変わらないということを理解し、面会時には、本人家族が安心して過ごせる場所の確保や、スタッフも家族の一員として本人の支援に参加出来る配慮をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医に通院したり、本人が地域で利用していたスーパーに買物に行ったりなどと、地域の中で関わってきたことの支援を実施している。	長年通っている美容院へ行けるよう支援したり、薬局、スーパーへ買物に出掛け、地域との馴染みの関係を継続出来るよう支援している。又、家族等の来訪時には、面会室の提供やお茶をお出しする配慮を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が出来ることを見つけて共有しながら参加できる関係づくりのサポートを実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても地域の中で共に暮らしているという関係性には変わりがないということ伝えて、必要があれば家族の相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と日々関わる中で、ちょっとしたサインの中にも、本人の思いや希望があることの気づきを大切にしており、困難が生じてきたときには、家族も含め相談検討の機会を作るようにしている。	入居者一人一人が発信するサインを見逃さないよう、日々の生活をきめ細かく観察するよう努めている。特に入居間もない方には一ヶ月間、一日の行動や会話を通じて情報を収集し、その方の思いや意向の把握、発信するサインに気づくポイント等職員間で情報を共有している。	職員一人ひとりが専門的知識を学ぼうとする姿勢を持ち、人間の理解や認知症の理解により、一層入居者の理解を深める事が出来ると認識し、更に研鑽を積まれる事が期待される。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から情報をいただいたり、本人からのアセスメントを共有し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所時のカンファレンスでの情報共有や、日々の過ごし方を観察することで、本人の現状の把握に努めている。」		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、ときには法人の関係者も入り、出来るだけ多くの情報収集をしてプランを作成している。本人があまり意思表示出来ない場合は、家族の意志も確認し参考にしていく。	サービス担当者会議は、本人、家族の出席を基本として意向を確認し、時には必要な関係者を交えて活発な意見交換をし、意見やアイデアを反映した現状に即した介護計画を作成している。家族との信頼も築けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、夜勤日誌、申し送りノートなどを参考にして、ケアを実践していく中で情報を共有して、気づきを介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内のサービスで使えるものは利用したりと、地域の中でも老人会参加など本人が希望するものに関しては、安全に配慮しながら参加し楽しめるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人が在宅時に使用していた郵便局、やスパなど、地域に理解を促しながら、地域の中で出来るだけ楽しみながら暮らすということを視点に置き、利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内の 嘱託医との連携や、協力病院とも関わりを持つことが出来、24時間の協力体制も可能である。また、在宅時のかかりつけ医とも連絡をとり、本人、家族の意志を最優先している。	本人や家族の意思を優先し、入居前のかかりつけ医へも通院出来るよう家族と協力して支援している。必要に応じてかかりつけ医と連絡を取り、通院に同行もしている。法人内嘱託医や協力病院とは24時間の協力体制があり、家族の安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設特養の看護師が常時観察をしてくれており、日常の中での出来事や気づきには、対応をしてくれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院をされた際には、病院関係者と連絡を取り合い、情報の共有を図っている。また、退院が近づいてきたときには病院相談員と連絡を密にするよう心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、施設としての方針を伝えている。その中で家族がけっして不安にならないような、話し合いを実施できるように努めている。また、家族の選択に対しては、慎重に対処している。	入居時の早い段階に重度化、及び、終末ケアについて、受入れ条件や方針を伝えている。家族と十分に話し合い、医療機関や併設特養への入所支援を行っている。過去に終末ケアを実施した経験もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応や、急変に対しては、スタッフの研修会はもちろんであるが、勤務のシフトの中でベテランと新人といった組み合わせも考えて、実践研修もしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内の防災訓練と合同で、年2回の訓練を実施している。その他、グループホーム独自に夜間想定連絡体制など、併設特養と連携しながら実施している。(合同防災訓練は、地域も参加しての実施である。)	法人内の合同防災訓練には近隣障害者施設の参加もあり、地域ぐるみの訓練を10年以上実施している。ホームは災害時の地域住民の避難所にもなっている。ホーム独自の夜間想定訓練も実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格の尊重は、基本であることを常々伝え、特に言葉遣いには、注意している。	管理者は常々入居者一人ひとりの人格の尊重が基本である事を職員に伝え、日常の言葉遣い等に注意している。又、職員間で共通用語を用いる等配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	理念でもある、ゆっくり、ゆったり、のんびりとを掲げ、日常生活の中から自身の望むことを出来るだけ決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の暮らしへの思いを意識しながら、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容はもちろん、いつでも本人の希望のとおりおしゃれには気をつけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が一番の楽しみであり、個々好みを伝えるので、栄養のバランスを考えながら、関わりを持っている。また、出来ることは、スタッフと一緒に準備、片付け等行っている。	食事が一番の楽しみであり、旬の食材を用意したり、彩り、料理も工夫している。個々の好みに応じたメニュー変更も柔軟に対応している。入居者は自ら職員と一緒に準備や後片付け等を行っている。食事時は職員も一緒に食し、和やかな雰囲気がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特養の栄養士に相談しながら献立を考えたりし、1日の栄養バランスが崩れないように対応している。摂取の仕方は、その人の生活の状況に合わせて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨き出来るひといれば、うがいが出来る場合もあるが、夜間休まれるときは、入れ歯洗浄が出来よう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立している方以外は、出来るだけ定期的に排泄のお手伝いをし、本人の力を活かしながら、その都度対応している。	個々のサインをキャッチし、さりげなくトイレへ誘導し、排泄の支援をしている。定期的な支援によって排泄の自立に至った方もいる。夜間はポータブルトイレ等、本人の希望に応じた対応を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立を作る際に、便秘のことも頭に入れながら考えている。特に繊維質を多く取り入れた献立づくりを心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には曜日を決めているが、本人の希望があればいつでも入浴が可能な状態に準備している。また、本人のその時々タイミングに合わせているときもある。	週3回が基本であるが、本人の希望やタイミングに合わせて柔軟な対応を行っている。以前は夜間入浴も行っていたが、入居者の希望で午後入浴が定着している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	長年の生活習慣の中で、本人の希望どおりに休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医や看護師と連携を密にして服薬調整を行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の出来る力に応じた、また、本人が希望する役割を持っていただき楽しみになるような支援を行なっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外へ出ることを楽しみにしている利用者が多いので出来るだけ屋外に出られるような計画を立て、支援をしている。	日常的に散歩や、入居者の馴染みの店への買物に出掛けている。ホームの外出行事として、梅、桜、菖蒲、紫陽花、コスモス等季節の花めぐりを地域のボランティアと協力しながら行っている。庭には季節の花や木が植えられ、出入りが可能な状況を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来る方には小銭等所持してもらっている。また所持が難しい方でも買物の支援の中で、現金の出し入れはスタッフと共に行えるような対応をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節ごとのお手紙のやりとりをしている他、希望があればホーム内にある電話を使用して家族といつでも連絡を取れるような体制をとっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の生活空間は、全体的にオープンで開放感ある環境に努めている。利用者が安心して暮らせる空間作りを確保するために季節感を取り入れたしつらえを工夫している。	円形の建物の中央に中庭があり、どこからでも中庭の草木や花を見渡せるよう共有スペースが回廊になっている。所々にソファや冬場は炬燵が置かれ、入居者や家族が寛げる環境作りに努めている。天井は高く、窓も大きく明るく、開放感あふれ、季節の花も飾られ、居心地良い空間が作られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	コタツや畳、ソファのスペースも含め、個々にあった空間の利用が出来るようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居する前から使用していたものや、本人の使い慣れた食器や家具などは、自由に持ち込んで良いことになっており、ときには、家を思い出せるような心地よさを持てるように努めている。	全室、壁紙やカーテン、床の色等配慮されている。本人にとって使い慣れた品々が持ち込まれている。鏡台や掛け軸、読書が出来る居室作り等、家を思い出せるような環境作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「できること」「わかること」は個々把握し、その都度の力を確認しながら、安全な環境づくりに努めている。		